

1 題材 音楽の構造と表現の工夫

2 目標

- 音楽の構造と曲想との関連に関心を持ち、表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとする。
- 音楽の構造と曲想との関連を理解し、ふさわしい表現の工夫ができる。
- 歌詞の内容や曲想を生かした表現の工夫をするために必要な強弱の付け方や発声などの表現の技能を身に付けて歌っている。
- 歌手による表現の違いを感じとりながら鑑賞することができる。

3 指導観

- 本題材は、学習指導要領の第1学年の表現の内容(1)ーア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」をねらいとして設定したものである。

音楽は、強弱・旋律・リズムなど、様々な要素からできており、それらの要素や構造の働きにより、楽曲の曲想は生み出されている。つまり、楽曲の構造を捉え、音楽の構造と曲想との関連を理解することは音楽活動の基本であり、表現活動においては、それらの構造や曲想についての理解が、表現の工夫を行う際の手がかりとなる。しかし、歌唱において表現の工夫をする際、多くの生徒はその手がかりを歌詞のみにとめる傾向がある。そこで、楽譜から音楽の構造を読み取り、それに基づいた表現の工夫を行うことで、より幅広い表現の工夫ができるようにしたい。

本教材で主教材となる「夏の思い出」は、夏の尾瀬の情景を描いた叙情歌の名作であり、幅広い世代に親しまれている。楽曲構成は分かりやすい二部形式であり、音楽の構造を理解する上で格好の教材である。また、強弱や伴奏の細かい変化により、音楽の構造と曲想との関連を理解しやすい。

- 本学級は、全体的に素直で、音楽の授業に対しても意欲的な生徒が多い。歌唱活動においては、積極的に声を出し、いきいきと表現しようとする姿がみられる。しかし、表現の工夫については、その手がかりを歌詞の内容のみに求めており、音楽の構造による表現の工夫については、今後の学習によるところが大きい。
- そこで本題材の学習では、まず第一時で、主教材「夏の思い出」の歌詞の内容を理解し、その情景をイメージしながら歌うことができるようにする。そして、二人の歌手の演奏を比較鑑賞させ、それぞれの表現の違いに気付かせることで、同じ楽曲であっても演奏者の解釈や工夫で異なる演奏になることを理解できるようにする。第二時では、まず関連教材「エリーゼのために」を聴かせることで、一つの楽曲の中でも曲想は変化することに気付かせ、そのことを通して「夏の思い出」の曲想の変化に注目させる。そして、もっとも変化が大きい第10小節目～13小節目の部分について、旋律や伴奏の変化などの楽曲の構造を手がかりに、ふさわしい強弱記号を考えさせる。またグループごとに考えた強弱記号どおりに、歌わせることでその効果を実感できるようにする。最後に、実際の強弱記号を確認し、作曲家の意図についても考えさせる。これらの活動を通して、表現の工夫をする際に楽曲の構造にも注目できるようにし、その背後にある作曲家の意図も考えながら表現の工夫ができる力を育成したい。

4 教材

主教材 「夏の思い出」 (江間章子 作詞／中田喜直 作曲)

関連教材 「エリーゼのために」 (ベートーヴェン 作曲)

5 指導計画

音楽の構造と表現の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

(1)歌詞の内容を理解し、正しい音程で歌うことができる。・・・・・・・・・・ 1時間

(2)音楽の構造による曲想の変化を生かした表現の工夫ができる。・・・・・・・・ 1時間(本時 1/2)

6 本時の目標

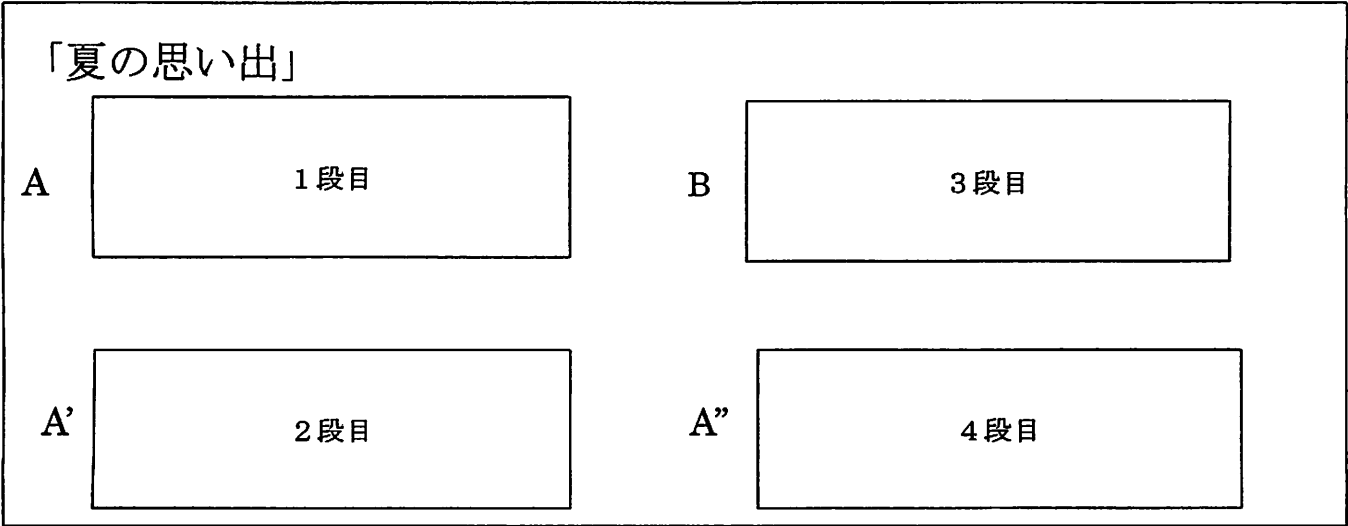
- 旋律やリズムの違いによる曲想の変化を感じとり、それを生かした表現の工夫を行うことができる。

7 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間	準備物
1. 「エリーゼのために」の聴き比べをする。 ○ 曲想にふさわしいのはどちらの演奏の仕方か考え、発表する。 ○ 曲想にあわせた表現の工夫が必要であることを確認する。	○ 歌詞だけでなく、音楽の構造に注目させるため、歌詞のないピアノ曲を聴かせる。 ○ 言葉にするのが難しい場合は、「明るい」「暗い」などの例を出す。 ○ 曲想にふさわしい表現の工夫にきづかせるために、主題から主音の保続低音が続く部分を、それぞれの曲想にあった弾き方と、そうでない弾き方をする。	5分	拡大譜
2. 本時の目標を確認する。	○ 本時は、「夏の思い出」の曲想の変化に注目して、表現の工夫を行うことを伝える。	7分	
3. 「夏の思い出」の曲想の変化について学習する。 ○ 最も変化が大きいのはどこか、何が変化しているか確認する。 ○ 旋律やリズムの違いが曲想の変化を作り出していることを理解する。 ○ 第10小節～13小節のみを歌って、その部分の曲想を感じ取る。	○ 一つの曲の中でも曲想は変化していき、曲想の変化にあわせた表現の工夫が必要であることに気付かせる。 ○ 生徒が考えやすいよう拡大譜を用意し、この曲が4つの部分に分けられることを確認する。 ○ 音楽の構造を理解できるよう、旋律やリズムの違いについて説明する。	17分	

4. グループごとに「夏の思い出」の第 10 小節～13 小節の部分の強弱を考える。 ○ 旋律の特徴や伴奏、歌詞の内容からふさわしい強弱の記号を考える。 ○ グループの意見を発表し、実際に歌い比べる。	○ あらかじめ強弱記号を抜いた楽譜を用意しておく。 ○ 強弱記号の種類と意味を簡単に確認する。 ○ 早く終わったグループには、速度についても考えるよう指示する。 ○ なぜその強弱記号にしたのか、理由とともに発表するよう指示する。 ○ 強弱記号による曲想の変化に注目させるため、「どっちが好きだった?」「比べてみてどう?」などの問いかけをする。 ○ 生徒が考えた表現の工夫を再現できるよう、積極的に技能指導を行う。	40 分	ワークシート 楽譜 拡大譜
5. 実際の強弱記号を教科書で確認し、作曲者の意図を考える。 ○ 自分たちの考えとの違いを理解する。 ○ 作曲者の意図を考える。	○ 作曲家のつけた強弱記号にも、自分たちと同じように、様々な意図があることに気付かせる。	47 分	教科書
6. 本時のまとめをする	○ 作曲者の意図を考え、それを解釈した上で、自分なりの表現を作り上げることが大切であることを確認する。 ○ 演奏者の意図と作曲者の意図の両方が大切であることを確認する。	50 分	

8
板書計画



「夏の思い出」ワークシート

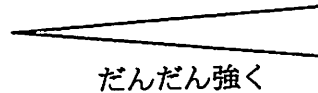
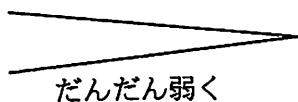
1年()組 名前()

<強弱の工夫>

弱い

pp, p, mp, mf, f, ff

強い



①強弱記号を選んで、つけてみよう♪

(2番のとき)

みずばしょう のは なが さいている ゆめみてさいている み ずのほとり
みずばしょう のは なが におっている ゆめみてにおっている み ずのほとり

②その理由を書こう♪